

2017/03/14

明治安田生命 鈴木

2016年 アジアボート選手権報告書

今回派遣に際しては以下三つの目的が貴協会より提示されていた。それらの目的に対するフィードバックを軸に本件報告いたします。

- ① 2020年東京オリンピック開催に向け、アジアボート界に日本のプレゼンスを示すこと。
- ② 社会人または大学のトップクルーが国際大会の雰囲気、大会運営、ルール等を経験することによって、国際大会に順応して、その実力を十分に出せるようにすること。
- ③ 今後のボート界を背負う若手選手にチャレンジ意欲を持ってもらうこと。

1) レースの展開、結果、反省点

今大会の開催時期は、我がチームにとって国体や全日本選手権に向けたクルー醸成の時期であり、クルー結成から日の浅い状況での参加となった。用意されていた艇はスイフト社の新艇で、乗り心地は良いとクルー全員が感じた。しかし支給時点で部品が足りない、不良品が多い等の問題が多発し、リギングは難航した。中国製の艇はずいぶんと進歩したとは聞いてはいたが、日本国内で通常エムパツハかフィリッピに比べると依然として精密さに欠けると思われる。レース以外でも瑣末な問題は当派遣中に多発したが、国内では貴協会主催レースの大半は戸田ボートコースで開催しているため、不測の事態への対応力向上には大いに役立ったように思われる。

私が出漕したのはLW4Xだが、レース展開としては、予選、決勝ともに優勝した中国クルーにスタートで先をいかれ、そのまま差を広げられて並ぶこともできないまま終わってしまい、2位ではあったものの不甲斐ない結果となった。クルーの完成度を考慮しても、優勝した中国とはストローク1本1本の質の差を感じた、だが、帰国後全日本選手権で優勝できたことには、今大会でのレース経験も背景にあっただろう。

2) 国際大会を経験して良かったこと、困ったこと、今後のボート人生にどのように影響するか

個人的には、ローイング文化含め全般的に他国の文化に触れるのはとても面白いと感じている。今回中国選手と親しく話す機会があったが、地域のクラブチームが盛んでカテゴリー数も日本より多い、クラブチームであってもフルタイムで活動している選手が多いなど、日本とは異なるローイング環境がうかがえた。練習メニューも聞いたが、大枠は我々が実践しているものと共通していた。それを考えると、練習メニューよりも練習環境や当事者自身の目的意識などの方が競技力を上げるうえで重要なのではないかと思われた。中国以外の選手からもそういった話が聞ければよかった。

3) その他雑感

まず衛生面で不安があったが、事前の情報提供である程度準備や対策ができた。また現地で飲料水の支給があったことも有難かった。加えて大所帯ではあったが無事に遠征を終えられたのは、団長を筆頭に代表者、選手間で円滑に連携が取れていたからだろう。

また今回は国際経験の少ないであろう高校生も参加していたが、国際大会に臨むノウハウを持つ者から積極的に伝達できていたと思われる。若手選手にチャレンジ意欲を持ってもらうという目的に対しては大きな収穫となっただろう。だが、大会中は基本的に各団体が別行動であり、彼らと接することはほぼなかった。社会人選手としてもっと積極的に接することができれば、彼らが将来卒業後もボートを続ける動機付けになったのではないかと感じている。

国内でも常々感じているが、学生チームと社会人チームの交流はほぼなく、そこには大きな壁がある。私自身も学生のころは社会人チームに対して漠然と「怖い」という感情しかなかった。学生にとって卒業後も競技を続けるということが自然に連続的になるように、我々は学生に対して積極的に人間味をアピールし、魅力的である必要があると今回再認識した。競技人口を増やすことは、競技力を向上させるためには欠かせない。

冒頭で述べた第一の目的である、日本のプレゼンスを示すという点において、今回優勝種目は一つもなかった。例年正式な日本代表選手は派遣していないが、競技人口が増えれば当大会に派遣されるような次点の選手の競技力も向上するだろうし、結果的にトップのレベルも引き上げられるだろう。

4) 今後の課題と要望

当大会は国内の主要大会である国体やインカレ、全日本選手権の時期と照らし合わせると、照準を合わせて調整するのはなかなか難しい。とりわけ今年度にいたっては、当大会の翌週がインカレで、ほとんどの大学生が当大会参加を辞退している。目的②③の達成を目指すのならば、国内大会の開催日程についても検討するべきではないだろうか。

また大会を終えて、各団体からは当報告書が提出されるが、これを開示していただければ、有益な情報共有が可能となるのではないかと。合わせて、貴協会からも評価や今後の課題等について提示いただければ、今後の活動の指針になると思う。

以上の通り報告いたします。最後になりますが、今回当大会に参加できたことに感謝申し上げます。